

記 録

開催日時：令和8年1月27日(火)13時30分～15時00分

出席者：別紙名簿のとおり

開催場所：総合文化会館第三講座室

主な内容

1. 委員長・副委員長の選任

- 委員長に南委員を選任。副委員長に金澤委員を選任。

2. 説明

- 別紙資料1～4のとおり

3. 協議

- 自身もバドミントンの指導に携わった経験があるが、保護者が「子どもを強くしてほしい」と思っているのか「楽しくやってほしい」と思っているのか、求めているものがハッキリしないと指導者もどのようにしたら良いか難しいのではと考える。

【事務局】

- ✓ アンケート結果を見ると中高生では「楽しく・仲良く」活動したいという声大きい。
- ✓ 活動の様子を見ても、いわゆるかつての「スポ根」みたいな姿は見られない。
- ✓ 「勝利」を目指すチームかは、子どもたちが決めることであり、指導者らが決めることではないと考えている。

-
- 大人が「部活動」とは何かを再認識するところから始めなければならないのかなと考えている。
 - 元々、学習指導要領には部活動というものは存在しなかったが、幾度かの改正を経て平成29年より「学校教育の一環として」という現在の記述となっている。
 - 国としては一度も部活動を「勝つため。強くなるため。」とは言っていない。
 - 自身の指導の経験上も子どもたちの「強くなりたい」という声に合わせて指導したことはあるが、部活動の制度上は「強くなるための活動ではない」ということを理解しなくてはいけない。
 - そのうえで、子どもや保護者のニーズを把握しなくてはいけない。保護者のアンケート結果を見ると「子どもたちが楽しく活動できれば」という一方で、「専門的な指導を求める」という声もあり、本音と建前と感じた。
 - 現在、試行で休日を中心に指導などが進められているが、将来的に土日の大会の引率、選手登録などの事務作業などを誰が担っていくのか。全て指導員になるのか、父母会など保護者となるのか、学校となるのか。こういったところも議論していかななくてはならない。

【事務局】

- ✓ 中体連や中文連といった大会には基本的に学校教員が引率することとなっている。加えて地域指導員がベンチ入りできたり、地域クラブが中体連に参加できるように変化してきているところで、今後、地域に開かれた形への変更が進むと考えている。
- ✓ その他の大会において「誰が引率をするか」については、各競技の指導者・顧問・子どもたち・保護者で協議することになってくるが、現実として移動手段的課題があり、市内での大会であれば問題ないが、市外が開催地となるとそういった課題も解決しなければならない。
- ✓ 選手登録については詳しく認識できていないが、地域指導者本人または競技団体が窓口となり行

っていると考えている。

- アンケート結果をもとに子どもや保護者の意見として議論を進めていくにあたり、もう少し回答数が必要と感じた。
- 基本的なこととして地域展開については、教職員の働き方改革のため、学校でできないから地域でということなのか。

【事務局】

- ✓ 部活動の地域展開については、スタートの議論については教職員の働き方改革から始まったもの。ただ、議論を進める中で教職員の働き方改革のためだけで地域の負担が増えることへの軋轢が生じていたところであり、国としても方針を変え、働き方改革だけでなく、少子化のなか、それぞれの地域の実態に合わせて子どもたちがスポーツ・文化に親しむ機会・環境を学校も含めた地域全体で作っていきましょうという現在の考え方にたどり着いたもの。

- 地域指導者の気持ちとしては、「携わる以上、選手強化・強いチームを作りたい」という思いになるのでは。中々、「競技の普及のために」といわれても気持ちが入らないと考える。
- 外部の指導者が関わると保護者からもチーム強化を期待されてしまうのではとも思う。
- 「楽しむ」だけでなく「勝利を目指すチーム」を作ること認めていかないと持続的でなくなるのではと考えている。
- 各スポーツ競技団体に指導員の派遣を依頼すると、強くなる活動を目指してしまうのかなと考えている。
- 楽しむことを目的とする学校チームと勝利を目指す一般チームのように分かれて活動していくのでは。
- 高校の美術指導に関わっているが、入選を目指しているような生徒とそうでない生徒では、レベルを見たらすぐに分かる。その生徒に応じた指導方法をしなくてはならない。
- どんなスポーツでも文化でも技術のみでなく我慢強さや根気を養わないといけない。
- 実際の指導に携わっている身としては、学校との綿密な連絡が大事だと考えている。
- 地域展開を進めるうえで、送迎の問題が大きな課題になると考えている。
- 私も送迎の問題は議論したかった。
- 本格化したときに市街地が練習会場となったときにどうするか。路線バスは無償だがダイヤが合わないに乗れない。
- 保護者に頼らないといけないのか。送迎の問題は協議していく必要がある。
- 活動場所についても議論していかなくてはならない。

【事務局】

- ✓ 活動場所については、基本的には中学校でできる環境を整えるのが良いと考えている。
- ✓ 地域展開を進めるうえで、学校施設で何か事故等があった際の責任の所在を、現状の学校長から教育委員会へ変更する必要がある。
- ✓ 中学校については、かつてのような夜間警備員の配置から機械警備に切り替わってきているところ。
- ✓ 総合文化会館や青少年センターといった公共施設は、すでにサークル団体等で予約が埋まっているところであり、利用は難しいのかなと考えている。

- 地域展開を進めるうえで、関係者が目指すビジョンをすり合わせて共有させる必要があると考えている。

- かつての日本のスポーツは「指導者主体」。強い指導者が強いチームを作る。そういった環境の中、行われてきた。
- その環境に、たまたま生き残った子どもたちの成功物語が良く語られてきたが、体罰なども問題が顕在化し、子どもたちとスポーツの在り方、指導者との関係性を考え直す時期になった。
- 子どもたちが何を求めている、どうなりたいかというニーズを拾い上げ、子どもを中心に大人がどう支援し、根室市としてどう受け皿をつくっていくかを考えていかなければならないと考えている。
- この検討委員会で多角的な意見を出し合いながら、小学生から高校生までが自分たちの幸せを実現するためにスポーツや文化活動に参加できる環境を作っていき、ゆくゆくは、その子どもたちが次の指導者になることを願っている。
- 陸上競技では、記録会等が全て釧路市で行われることから小学生から高校生までが貸切バスに乗り合わせて会場へ向かっており、そこでコミュニケーションが生まれている。
- 小中高校生が世代を超えたコミュニケーションを取れるようなれば、どの競技でも同じ競技を続ける子どもが増えてくるのかなと考えている。
- 現在の試行においての指導者は何かしらの有資格者なのか。

【事務局】

- ✓ 各競技団体から指導者を引き受けていただける人の推薦をいただいているところで、資格等の制約を設けていない。

- 資格にこだわっていれば、指導員確保に難しいことから現在のやり方で良いと思う。
- 保護者のアンケート回収率が低かったところであり、地域の皆さんも関わる事業ということからも、部活動地域展開に関して国の動きや根室市が目指す方向性について、わかりやすく発信していく必要があるのでは。

【事務局】

- ✓ 保護者や地域住民へ地域展開についての周知活動が必要だと考えている。
- ✓ 地域展開は市議会などでも取り上げられ、教育委員会としては若手のワーキンググループの取り組みとして地域展開に限らず教育委員会の活動を紹介する周知活動を検討している。

- 関係者のみでなく、広く知ってもらい、関心を持ってもらうことで地域の人材の掘り起こしにもつながると考える。
- どうしてもこれまでの感覚だと何でもかんでも学校がやることと考えられていると思うので、学校だけでなく地域とともに子どもの環境を作っていくんだということを少しずつでも伝えていけたら。
- かつては、保護者が一生懸命になり、小中学校のころから夜間も土日も練習して強くなっていった時代であった。
- 小中高とピラミッド型で進学する中で、レギュラーに入れない子は他の競技に移ったり、強い子は札幌などの強豪校に流れてしまっという状況が釧路や帯広に聞いても同じ状況だと聞いている。
- ソフトテニスが全道大会に進んだと聞いて驚いたと同時に、地域展開の成果なのかと捉えていたが。

【事務局】

- ✓ 強くなることだけが目的でないという議論もあったところだが、ソフトテニスに関しては、何十年とキャリアのある地域指導員が1から練習方法を考え、一昨年の6月から中1から始めた子どもたちに熱心に毎週指導いただき、今回の結果につながったところで、子どもたちはもちろん、教えた指導者の皆さんも喜んでいると伺っている。

- 水泳部などは学校部活動の扱いになるのか。

【事務局】

- ✓ 水泳などは「特設部」の扱いとなり、学校に部活動としてあるものの実態はスポーツクラブで練習などを行っているもので、学校の部活として中体連などへ参加できる仕組み。
 - ✓ 柔道など地域クラブとして活動し、これまで中体連に出られなかった競技も大会ルールが変わり出場できるようになったところ。
-

- 当校は小規模校としてこれまで地域の方の協力を得て活動してきたところだが、今回のような議論を重ね、地域展開のような仕組みを作らないと活動に限界がある。
- 市街地校、郡部校など各学校でモデルを作りながら、話し合いを重ねていくことが大切だと考えている。
- オンライン指導などもあり、全ての課題が解決するわけではないが新たな技術も活用しつつ、「根室ならではの」地域展開を皆さんとともに目指していきたい。

(了)